

大垣西ロータリークラブメイクアップ報告

奉仕プロジェクト委員長 松元 直美

私は、岐阜県大垣市にあります大垣フォーラムホテルで11月25日に行われた、大垣西ロータリークラブ(RI 第 2630 地区)の例会に出席しました。

今回は、大垣西 RC の会員である大石真規会員に声をかけて頂き、一緒に紙芝居「薩摩義士ものがたり」を読ませて頂きました。

私は、以前 6 年間ローターアクトクラブに在籍し、鹿児島市青年国内研修に参加しました。この研修は、鹿児島市の青年団体のリーダーを兄弟都市である山形県 鶴岡市・フレンドリーシティである岐阜県大垣市に派遣する事業で、研修後、参加したメンバーで作った「鶴垣鹿維」という任意の団体に16年間程在籍していました。

それから今も薩摩義士顕彰事業を行っている大垣青年クラブとの交流が続いており、54期会長としてご活躍されていた大石会員には大変お世話になった次第です。

大石会員が今年の5月に、鹿児島市の平田公園で行われた薩摩義士頌徳慰霊祭に参列された際、青年クラブ卒業後ロータリークラブに入会されているという話をお聞きし、今回の例会に出席する運びとなりました。

かつて、木曾三川である木曾川・長良川・揖斐川は毎年洪水を繰り返し多くの人の命を奪っていた暴れ川でした。

木曾三川の堤防工事のお手伝い普請として幕府から命令を受けた薩摩藩。

総奉行である平田鞞負翁は、「民に尽くすもまた武士の本分」と説破し、薩摩義士約 750 人と共に薩摩を出発。最終的には 1,000 名弱の方が美濃に向かい、命がけの「宝暦治水工事」を成し遂げました。この工事により 84 名の命が奪われ薩摩藩は多くの負債を残しました。

この全責任を負い、平田鞞負翁は「住み慣れし 里も今さら 名残りにて 立ちぞわづらふ 美濃の大牧」という句を残し、自刃されました。

薩摩義士の宝暦治水工事のおかげで、今の自分たちがあると美濃の方々はおっしゃいます。美濃の方々の薩摩義士への報恩感謝の想いは、260 年経った今でも子々孫々大切に受け継がれ、薩摩と美濃は固い絆で結ばれています。

紙芝居「薩摩義士ものがたり」は、大垣市の小学校を中心に大垣青年クラブの方々で読み聞かせをされており、9年前には鹿児島市の2校で読んでくださいました。その時に私も同行したのですが、初めて紙芝居を見て大垣青年クラブの方の話を聞いた小学生が涙を流していました。その姿に感動し、私たち鶴垣鹿維も、大垣青年クラブの作った紙芝居を写し同じ紙芝居を作成することにしました。7年前から薩摩義士碑の清掃後読み聞かせを行い、小学校1校ですが、5年生の授業の中で読み聞かせの機会を頂いています。

また、これまでも鹿児島・大垣にて合同の紙芝居読み聞かせの機会が幾度かあり、鹿児島弁の私達と感謝の想いがたくさん詰まった青年クラブの方々の心のこもった合同読み聞かせは、とても有意義なものでした。

私は、ロータリークラブに入会したばかりの今、以前から交流している大垣青年クラブOBの尊敬する先輩方が所属する大垣西ロータリークラブで、読み聞かせの機会を頂いたことは、これまで活動してきたことと今から深まるものが繋がったようで、本当に喜ばしいことでした。

薩摩義士が結んでくださった薩摩と美濃。それを今まで大事に繋げてくださった美濃の皆さん。まさに「奉仕の心」で繋がったご縁だと思います。

大垣青年クラブはこの他にも、鹿児島市の中学生をクラブ員の家庭でホームステイの受け入れをする招待行事、鹿児島市青年国内研修生との交流、都市美化行事の実施として水門川早朝清掃活動、舟下り芭蕉祭りの実施等活動されています。

また、毎年5月25日の薩摩義士頌徳慰霊祭では、「顕彰の言葉」の最後を大垣青年クラブ会長が言葉を述べられ、その存在感をしっかりと感じるすることができます。

その中で、歴代の会長が話された、薩摩義士の方々から学ぶ「3つの心」を最後に紹介したいと思います。

- ① 自らの幸せのみならず他人の幸せを守るためにその善意の心を惜しみなく与える「奉仕の心」
- ② どんな困難に直面しても音をあげずじっとその苦しさに耐え忍んでやりぬく「不撓不屈の心」
- ③ 受けた恩に対して感謝することを忘れない「報恩感謝の心」

この3つの心を、次世代を担う子どもたちに伝えると共に私達の心に深くきざみ込むということなのです。

かつて、先人たちが未来の薩摩・美濃を思い描き、命をかけて守り抜いた私達の郷土。大切にしなければと思います。

大垣青年クラブの掲げる3つの心を大切にして、郷土を愛し、奉仕の心を温め人々の笑顔に繋がる自分になれば幸いです。

お世話になったすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。